

名取の方々からのアンケート回答結果のまとめ

1. 三世逝去当時の理事の先生方（壽一美先生、喬輔先生、寿南海先生）が「花柳寛氏は暫定的な家元にすぎない」と明確に述べていることについて
 - (1) その通りと思う。／当然と思う。／同意する。／事実だと思う。
 - (2) 三世が急逝されて、急場的に、仮に決めたことだと思っていた。
 - (3) いずれ血縁の親類縁者／貴彦氏／本流に戻ると思っていた。
 - (4) その通り5年位と思っていた。
 - (5) 四世が創右さんには継がせないと言った、とも聞いた。
 - (6) 当時は一応、寛氏にと皆も考えたと思う。しかしあの直後集められて、5年位と聞いたので当然暫定的家元と思っていた。
 - (7) 直に寿南海先生より聞いた。
 - (8) 直に伺ってはいないが、葬儀の時にそのような流れを感じていた。
 - (9) 初代から二代目襲名までの空白の間、暫定的な家元を経て二代目襲名が成された前例があり、理事の方々もそれが可能であると判断したのであろうが、相手が違ったということに尽きる。そこを見抜けなかった理事の方々の責任は重い。
 - (10) 寿南海氏は裁判でそんなことはないと言明しており、息子のためとはいえあまりにもひどい。
 - (11) 現四代目の力が強いのか、皆さんそのようなことは言ったような覚えがない態度で、保身のためであろう。
 - (12) 理事の先生方も寛氏も名取の人たちも、暫定的な家元であると思っていたが、寛氏の気持ちが変わっていったのだと思う。
 - (13) 一時的な家元だから皆従ったのではないか。
 - (14) 貴重な証言だ。三世家元が口に出さないまでも、その処遇で周りの方は家元の心を察していたと思う。この資料が出ていればと遺憾に思う。
 - (15) 急逝に混乱していたのだろうか。証言によりあらためて短期間のはずであったと確信し

た。

(16) 寛氏の独断的行為のように思う。

(17) 暫定的であるのに、皆をあざむいた悪人である。

(18) 暫定であることを書面にしておくべきだったと思う。

(19) 暫定的な家元にすぎないことを公に認めさせたい。

(20) 暫定的な家元にすぎないのであれば、家元の地位を退いてほしい。

(21) 寛氏が家元のわけがない。

(22) 暫定的な家元としても、貴彦さんがいたと思うので、そのようにもっていったことがおかしい。

(23) 貴彦氏が指名されていたことをご存知だったからだと思う。

2. 三世逝去当時の理事の先生方（壽一美先生、喬輔先生、寿南海先生）が「三代目お家元は花柳貴彦を家元後継者と考えていた」と明確に述べていることについて
- (1) 事実だと思う。／当然と思っていた。／そう思う。／信頼できる。／そうすべきだ。
 - (2) 花柳家に伝わる祭事等の指導、家元の証とされる面等の扱いを任された事実からみても後継者と考えておられた証である。
 - (3) そのように三世は親しい方々にはお話されていたと思うし、実際三世の稽古場でもご自宅でも後継者として色々な事を教えていらした。
 - (4) はっきりそのご意志を聞いた先生のお話で、四代目は貴彦氏と思っていた。
 - (5) 家元にごく近い友人からそう聞いていた。
 - (6) 家元にお稽古に行っていた方から伺ったことがある。
 - (7) 理事の先生方はご存知の様子だった。追善会で、皆様あの方が四代目になられる方とささやいていた。
 - (8) 三代目ご存命中、諸先生方の会に、貴彦氏を後見や立方に遣わされたのを見るにつけ、三代目は貴彦氏を次期家元にと考えておられたと思う。
 - (9) 貴彦氏を家元として教育していることは、家元宅へ訪れるたびに感じていた。
 - (10) 三代目が亡くなる前よりお話は伺っていた。
 - (11) 貴彦氏が築地の道場に來た時から、いずれ四代目になる方と思っていた。
 - (12) 多くの名取、お弟子さん、皆さんそう思っていたと思う。
 - (13) そうでなければ貴彦氏が会社を辞めて家元道場にて修行を始めた理由がわからない。
 - (14) 理事たちは寛氏を甘くみていたのではないか。理事たちで牛耳れると思っていたのが間違い。
 - (15) これだけしっかりとした資料がありながら何故と悔しく思う。
 - (16) 3人もの役職の先生方が作り話をするとは考えにくく、その事実が継承の決め手になるのでは。
 - (17) 三代目家元の意志を尊重してほしい。
 - (18) 血筋に戻すべき。

- (19) 貴彦氏は家元としてふさわしい方だと思う。
- (20) 五代目は貴彦氏にがんばっていただきたい。
- (21) そうであれば、どんな判決がおりても負けずに家元を名乗って分裂しても良いと思う。
- (22) 現家元の筋へと変わっていく事を、三代目が考えていなかった事は、3人の先生方もよくわかっているのに。証言として言ってほしかった。
- (23) もっと早い時期に述べていただきたかった。
- (24) 三代目家元の考えを文書などではっきり伝えていただかなかったことは悔やまれる。
- (25) なぜ、その時にはっきり述べなかったのか、あまりにも無責任。いくら自分が大事でも、花柳流のために声を上げるべきだった。今からでも遅くない。
- (26) なぜ現在の状況を黙認しているのか理解できない。
- (27) 貴彦氏の話もまたづてに聞いていた。口約束なのでは…とも。
- (28) 家元になるということは、多勢の信頼があればこそだと思う。
- (29) 寛氏が一時的な家元で、血統の正しい貴彦氏に次をゆずると聞けなかった理事会の雰囲気がよくわかる。
- (30) 何か書類があるとしたら、寿南海氏は大変お困りのことと察する。

3. 花柳寛氏が花柳創右氏への家元継承を強行しようとしていることについて

- (1) 反対。／間違いだ。／だめだ。／言語道断。／暴挙だ。／認められない。／納得いかない。／おかしい。／とんでもない。／不可解。／不愉快。／阻止したい。
- (2) 創右氏は品格・芸量・人柄において家元に相応しくない。／無理だ。
- (3) 乗っ取りだ。
- (4) 独裁的行為は非常識。無理やり家元にしても創右氏が馬鹿にされるのは目に見えている。イメージーションがないのか。
- (5) 人格、踊り、すべて家元という肩書にはまだまだ。花柳流も末期。流儀をやめたい気持ち。
- (6) 過去の言動と整合性がない。血筋もないので認められない。
- (7) 理不尽、看過できない。家元は血縁が相続するもので、そうでないなら慎重な協議が必要。暫定の家元が一存で指名するものではない。
- (8) 「これからは血筋の時代じゃない」と言ってなった家元が、血筋を実力・人格関係なくたてることは理解できない。
- (9) 私物化もはなはだしい。強行しても創右氏を支える人はいなくなると思う。
- (10) それこそ血のつながらないものへの強引なやり方で、天皇に位をゆずって上皇となり、院政をひくようだ。
- (11) 暫定的な家元にすぎない寛氏に五代目家元まで決める資格はない。
- (12) 自分の田に水を引こうと、必死になっているのがよくわかる。
- (13) 時期尚早。
- (14) 初代、二代目、三代目、支えていらした心ある方々にどう向き合われるのか。流派の内外を問わず道を外す行為だ。
- (15) 自分が元気うちに本家筋から移行したいのだろうが、「血縁の継承は古い」と言ったことを忘れたのか。流儀の私物化もはなはだしい。
- (16) 自分が話したことと違っている。とてもおかしい。
- (17) 花柳流とは、家元とは、宗家とは、芸とは何か。もっとすべてを大切に丁寧に考えてほ

しい。

(18) 貴雄氏が毎晩四代目に詰め寄ったと聞いている。

(19) 貴彦氏の存在が脅威なのであろう。

(20) 五世家元指名の理由を、裁判でも総会でも答えず無視を続け、なりふり構わぬ所業。みつともない。

(21) 流儀を私物化している。貴彦氏に戻すべきだ。

(22) 大流儀を率いていく人間性を持ち合わせていない方だ。権力欲のみで行動しているところが醜い。

(23) 自分の身内にと考えるのもありだろうが、二代目三代目から本流がどこか違うように思う。

4. 花柳寛氏が「花柳壽應」を襲名しようとしていることについて

- (1) 認められない。／許されない。／資格がない。／権利がない。／反対。／いや。／あってはならない。／使ってほしくない。／阻止すべき。
- (2) 論外。／あきれる。／絶句する。／信じられない。／びっくりした。／正気でない。／暴挙。／あってはならない。／おかしいこと。／理解できない。／不自然。／怒りにふるえる。／腹が立つ。／無礼者。／おこがましい。／失礼だ。／ばち当たり。
- (3) 大切な「壽應」の名を汚す。／大切な名前を継いでほしくない。
- (4) 一代限り、先代一人である。
- (5) 数日間だけの名前、寛應に戻ればいい。
- (6) 本来ならば自分をつなぎであると辞退するくらいの謙虚さが欲しい。
- (7) 院政をしようと思っているのだろう。二代目の名を借りなければいけない事態なのかと思う。絶対に認められない。
- (8) 何も決着していないうちにどうしてかと、年の焦りだろうか。三代目も悲しまれることだろう。
- (9) 二代目家元の取立名取の気持ちが考えられないのだろうか。
- (10) 壽應を名乗られる方は人格的にも相応しい方でなければならず、流派全体の事を考えないような自分勝手な人では二代目も悲しまれることと思う。
- (11) この1月の総会の時、皆さん凍りついていた。二代目、三代目も天国でなげいておられるであろう。
- (12) 自分本位の考え。二代目三代目はどう考えられるだろうか。
- (13) 三代目を無視しすぎている。人間として先人に対しての尊敬の心がないのが残念。
- (14) 襲名とは？意味があるのか？歌舞伎の猿真似であろうか？
- (15) 思わず笑ってしまう。

5. 花柳流名取でも日本舞踊家でもない花柳貴雄氏（花柳寛氏の養子であり、花柳創右氏の父）が花柳流の運営に関与している疑いがあることについて
- (1) 間違い。／ナンセンス。／認められない。／言語道断。／避けなければならない。／納得できない。／あってはならない。
 - (2) 流派の私物化である。／花柳流は個人のものではない。
 - (3) よく聞く話。自分の事業を考えて、ぜひ息子にと思ったのだろう。大阪の会の折に「四代目と自分たちは考えが違う。」とはっきり言って、五代目の折にはこうしたいと思うことが色々あるのだろう。
 - (4) 育子、貴雄母子が花柳流を金儲けの道具に色々はかりごとをめぐらせ、踊りの心など全く意に介せず、悪たくみを実行してきたのだと思っている。
 - (5) 貴雄氏の発言は寛氏やその家族に対しても影響力が強かった。花柳流の運営に関与している疑いがあることは納得できる。
 - (6) 周知の事実のようだ。この方が創右を早く家元にしたいようだ。
 - (7) このような私利私欲にまみれた人が花柳を汚し、大切な築地の稽古場を奪ったのかと思うと情けなく、悔しく残念でならない。
 - (8) 昔から金銭に執着のある家族と聞いている。流儀を私物化し、現家元が正常な精神でない状態だと察する。驚きと同時に憤りを覚える。
 - (9) 言語道断。花柳流は、「花柳会・理事会」と運営主体の「委員会」が備わっているのだから、年中行事や催事及び名取試験などの取り扱いができないはずだ。寛氏個人のアドバイザーは自由だが、花柳流は立派な事務所もあり、理事会での決定事項を広く一般名取に知らしめることをつかさどる役目を負う。それに口をはさむことは、越権行為で絶対許されない。
 - (10) ちゃんとした理事会や各役員がいるのに、どうして他人が関与できるのか。しっかり排除すべき。
 - (11) はじめて知った。皆も存在すら知らされていないのでは。時々四代目の公金使用のうわさを耳にする。

- (12) やはり裏で操っている人がいたのですね。欲が絡んでいる。流儀のことを考えて血筋になるべき人に返してほしい。
- (13) 私物化していることは、流儀にとって情けないことで、明白にしてほしい。
- (14) 関与するなら花柳会のそれなりの役目を持って入るべき。運営に関しては日舞家である必要は必ずしもないと思う。ただ今は息子を家元にするための私欲に動かされているとしか思えない。